

宇美町
まちづくりに関する町民意識調査
報告書

【概要版】

令和 4 年 3 月

宇 美 町

I 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、第7次宇美町総合計画（令和5年度～令和12年度）の策定にあたって、まちへの愛着度や今後の定住意向、今後のまちづくりの特色をはじめ、町民・中学生・職員の意識やニーズを把握し、計画づくりの基礎資料を得るために実施したものです。

(2) 調査対象及び調査方法、回収結果

項目	町民	中学生	職員
名称	宇美町まちづくりに関する町民意識調査	宇美町まちづくりに関する中学生アンケート調査	宇美町まちづくりに関する職員意識調査
調査対象	18歳以上の町民	町内の中学2年生	町職員
配布数	3,000	394	197
抽出法等	無作為抽出	全数調査	全数調査
調査方法	郵送法	学校への依頼と郵送法の併用	町役場での配布・回収
調査時期	令和3年10月	令和3年10月	令和3年10月
有効回収数	1,441	330	191
有効回収率	48.0%	83.8%	97.0%

Ⅱ 調査結果

1 まちへの愛着度と定住意向などについて

(1) まちへの愛着度

- “愛着を感じている”が61.7%、“愛着を感じていない”が9.0%。

「とても愛着を感じている」と「どちらかという愛着を感じている」とをあわせた“愛着を感じている”という人が61.7%、「あまり愛着を感じていない」と「愛着を感じていない」をあわせた“愛着を感じていない”という人が9.0%で、多くの町民が本町に愛着を感じていることがうかがえます。

平成29年に実施した前回の調査結果と比較すると、“愛着を感じている”という率が3ポイント低下しているものの、大きな差はありません。

中学生の調査結果では、“好きだ（愛着を感じている）”という生徒が63.0%とほぼ同様でした。

属性別で“愛着を感じている”という率をみると、性別では、大きな違いはみられず、年齢別では、30代で高く、10・20代と40代で低くなっており、特に、30代の愛着が最も強いことが本町の特徴としてあげられます。[図表1参照]

図表1 まちへの愛着度（全体・性別・年齢・居住地区）

	(%)	愛着度					n
		とても愛着を感じている	どちらかという愛着を感じている	どちらともいえない	あまり愛着を感じていない	愛着を感じていない	
全体 (R3)	17.3	44.4	25.6	6.5	2.6	1441	
全体 (H29)	18.1	46.6	25.0	6.9	2.6	496	
性別	男性	19.8	43.9	24.6	7.1	2.6	606
	女性	16.2	46.2	26.2	6.1	2.6	782
年齢	10・20代	21.4	34.2	29.9	7.7	6.0	117
	30代	19.9	50.0	18.1	6.6	3.6	166
	40代	13.9	44.3	26.1	9.6	3.0	230
	50代	16.8	47.1	26.0	6.3	3.0	208
	60代	18.6	44.1	28.2	2.9	1.0	365
	70歳以上	16.9	46.7	25.9	6.3	4.7	332
	居住地区	宇美小学校区	17.1	46.5	27.4	1.8	2.4
宇美東小学校区		18.3	44.3	26.5	5.7	4.4	230
原田小学校区		17.4	47.8	20.9	7.8	3.0	345
桜原小学校区		19.5	44.6	25.8	6.4	3.2	298
井野小学校区		15.4	41.8	30.2	8.2	1.7	182

(2) 宇美町の魅力

- 「自然環境が豊かである」が他を引き離して第1位、次いで「買物の便がよい」、「住みやすい住宅地がある」の順。

「自然環境が豊かである」が他を引き離して第1位、「買物の便がよい」が第2位、「住みやすい住宅地がある」が第3位、続いて「歴史的・文化的資源が豊かである」、「生活環境施設が整っている」、「道路・交通の便がよい」の順で、“自然の豊かさ”をはじめ、“買物の便のよさ”や“住宅地の存在”、“歴史的資源の豊かさ”、“整備された生活環境施設”、“道路・交通の便のよさ”を本町の魅力と感じる人が多くなっています。[図表2参照]

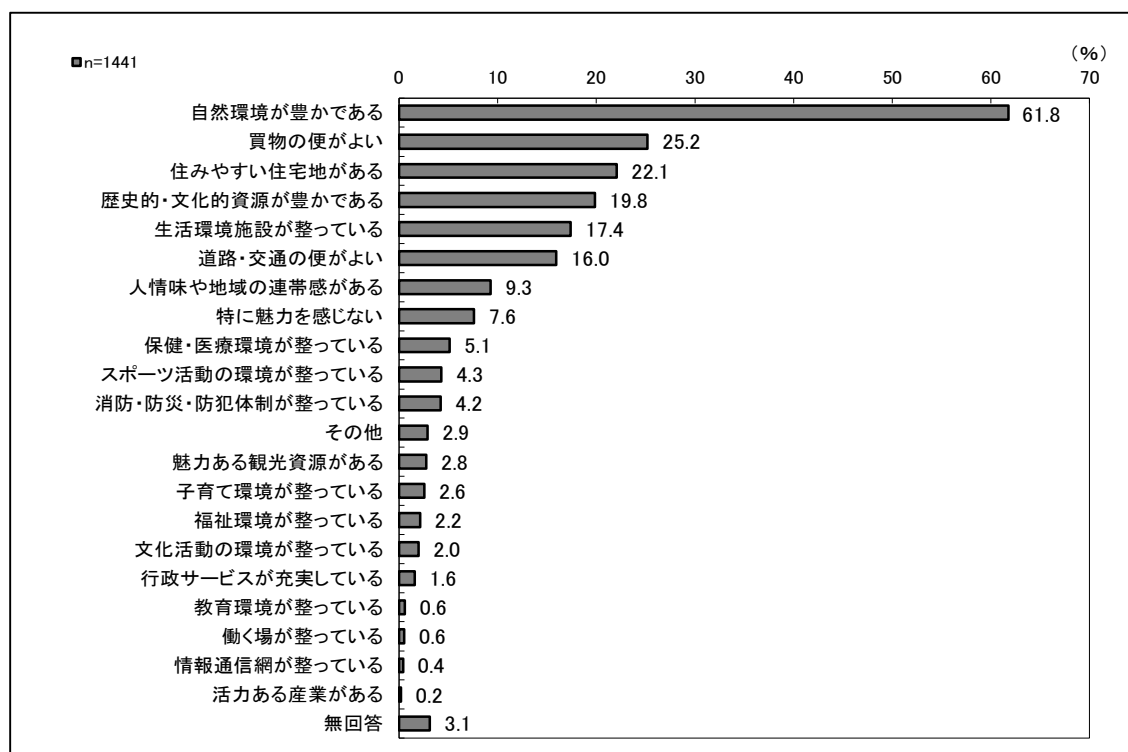
前回の調査結果と比較すると、上位回答はほぼ同様で、大きな変化はみられません。

中学生の調査結果と比較すると、「自然環境が豊かである」が第1位であることに変わりはありませんが、第2位をみると、中学生では「人がやさしい」(町民では第7位)となっています。

職員の調査結果と比較すると、やはり「自然環境が豊かである」が第1位であることに変わりはありませんが、第2位をみると、職員では「歴史的・文化的資源が豊かである」(町民では第4位)が以下を引き離して第2位となっており、職員では、“自然の豊かさ”に次いで、“歴史資源の豊かさ”を町の魅力と考える人が多くなっています。

属性別でみると、すべての属性で町全体と同様に「自然環境が豊かである」が第1位、ほとんどの属性で「買物の便がよい」あるいは「住みやすい住宅地がある」が第2位となっていますが、50代では「歴史的・文化的資源が豊かである」が第2位、70歳以上や宇美東小学校区では「生活環境施設が整っている」が第2位となるなど、年齢や居住地区によって若干の違いがみられます。

図表2 宇美町の魅力（全体／複数回答）



(3) 今後の定住意向

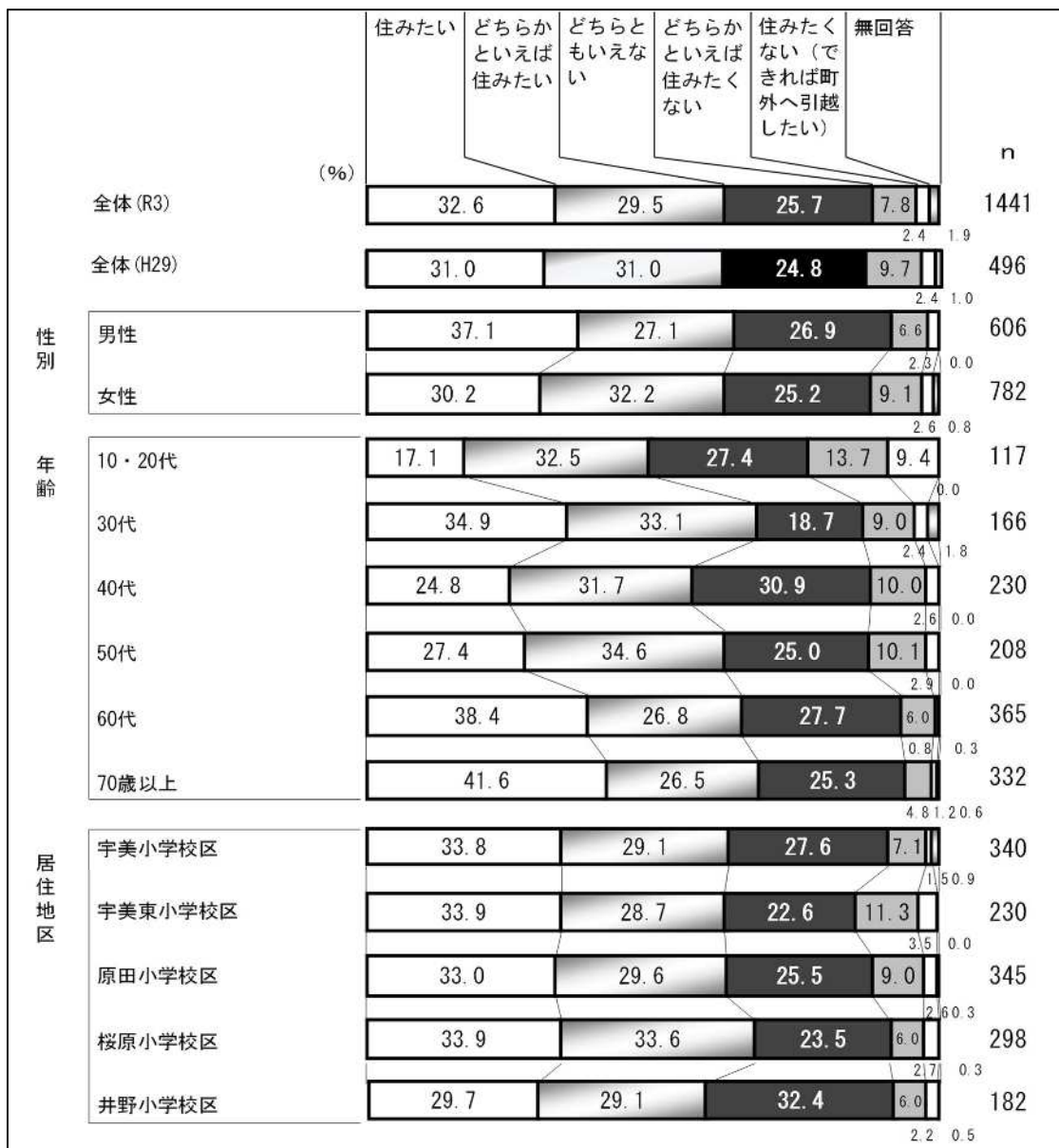
● “住みたい” が 62.1%、“住みたくない” が 10.3%。

「住みたい」と「どちらかといえば住みたい」をあわせた“住みたい”という人が 62.1%、「どちらかといえば住みたくない」と「住みたくない（できれば町外へ引越したい）」をあわせた“住みたくない”という人が 10.3%で、多くの町民が本町に定住したいと考えていることがうかがえます。

前回の調査結果と比較すると、“住みたい”という率は同様であり、定住意向は変わっていないことがうかがえます。

属性別で“住みたい”という率をみると、性別では、大きな違いはみられませんが、年齢別では、問2の「まちへの愛着度」と同様に、30代で高く、10・20代で低くなっており、特に、30代の定住意向が最も強いことが本町の特徴としてあげられます。[図表3参照]

図表3 今後の定住意向（全体・性別・年齢・居住地区）



(4) 住みたくない主な理由

● 「道路・交通の便が悪い」が第1位、「買物の便が悪い」が第2位。

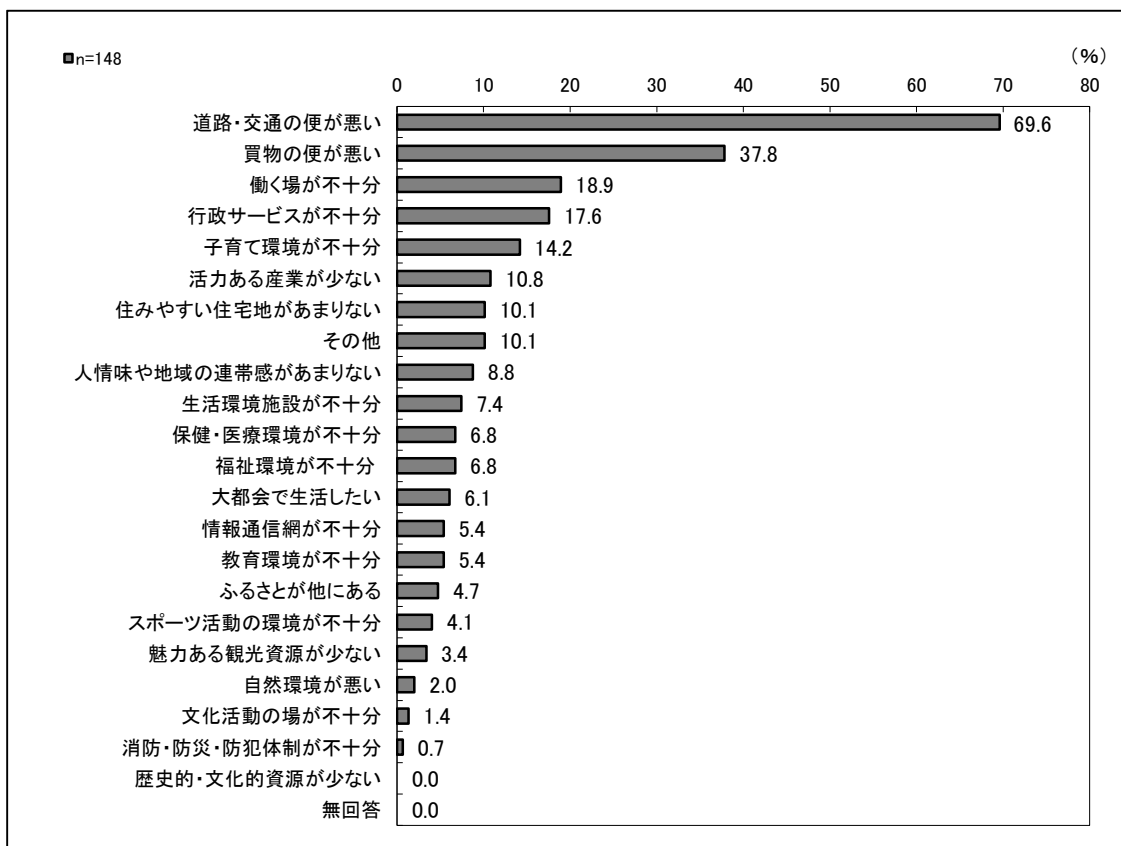
「道路・交通の便が悪い」が第1位、「買物の便が悪い」が第2位で、これらは他を引き離して代表的な理由となっており、“道路・交通や買物の便の悪さ”を指摘する人が多くなっています。これら以外では、「働く場が不十分」、「行政サービスが不十分」、「子育て環境が不十分」などの順となっています。[図表4参照]

前回の調査結果と比較すると、上位回答はほぼ同様に、大きな変化はみられません。

中学生の調査結果と比較すると、「買物の便が悪い」が第2位であることは共通していますが、第1位をみると、中学生では「都会で暮らしたい」(町民では第13位)となっており、町民では“道路・交通の便の悪さ”、中学生では“都会へのあこがれ”が最も大きな理由としてあげられています。

職員の調査結果と比較すると、「道路・交通の便が悪い」が第1位であることは共通していますが、第2位をみると、職員では「活力ある産業が少ない」(町民では第6位)となっており、職員では、“道路・交通の便の悪さ”に次いで、“活力ある産業の少なさ”を指摘する人が多い結果となっています。

図表4 住みたくない主な理由（全体／複数回答）



2 まちの現状と今後の取組について

(1) まちの各施策に関する満足度

- 満足度が最も高い項目は「循環型社会形成の推進」、次いで「読書活動の推進」、「上・下水道の整備」の順。
- 満足度が最も低い項目は「道路網の充実」、次いで「交通網の充実」、「観光の振興」の順。

まちの各施策（8分野 31項目）の満足度について、加重平均値による数量化[下記参照]で評価点を算出しました。

満足度が最も高い項目は「循環型社会形成の推進」で、次いで第2位が「読書活動の推進」、第3位が「上・下水道の整備」、続いて「文化財の保存と活用」、「自然環境と公園・緑地・水辺の保全・整備」、「町民の健康づくりの推進」、「防災対策の充実」、「スポーツ活動の推進」などの順となっています。

一方、満足度が最も低い項目は「道路網の充実」で、次いで第2位が「交通網の充実」、第3位が「観光の振興」、続いて「商工業・サービス業の振興」、「交通安全の充実」、「都市機能の立地誘導・集約」、「生活環境の保全・向上」、「農林業の振興」などの順となっています。

分野別にみると、共働・地域コミュニティ分野、安全安心分野、福祉・保健分野、子育て・教育・文化分野、生活環境分野、共生・行財政分野がプラスの評価点となり、産業分野、都市基盤分野がマイナスの評価点となっています。

前回の調査結果と比較すると、満足度が大幅に上がった項目は「商工業・サービス業の振興」、「都市機能の立地誘導・集約」、「子育て支援の充実」、「共働の推進」などで、満足度が大幅に下がった項目は「生涯学習の推進」などとなっています。[図表5参照]

職員の調査結果と比較すると、満足度の上位3項目と下位3項目はほぼ同様であり、まちの各施策に関する満足度については、町民の評価と職員の評価はほぼ一致しているといえます。

※加重平均値の算出方法

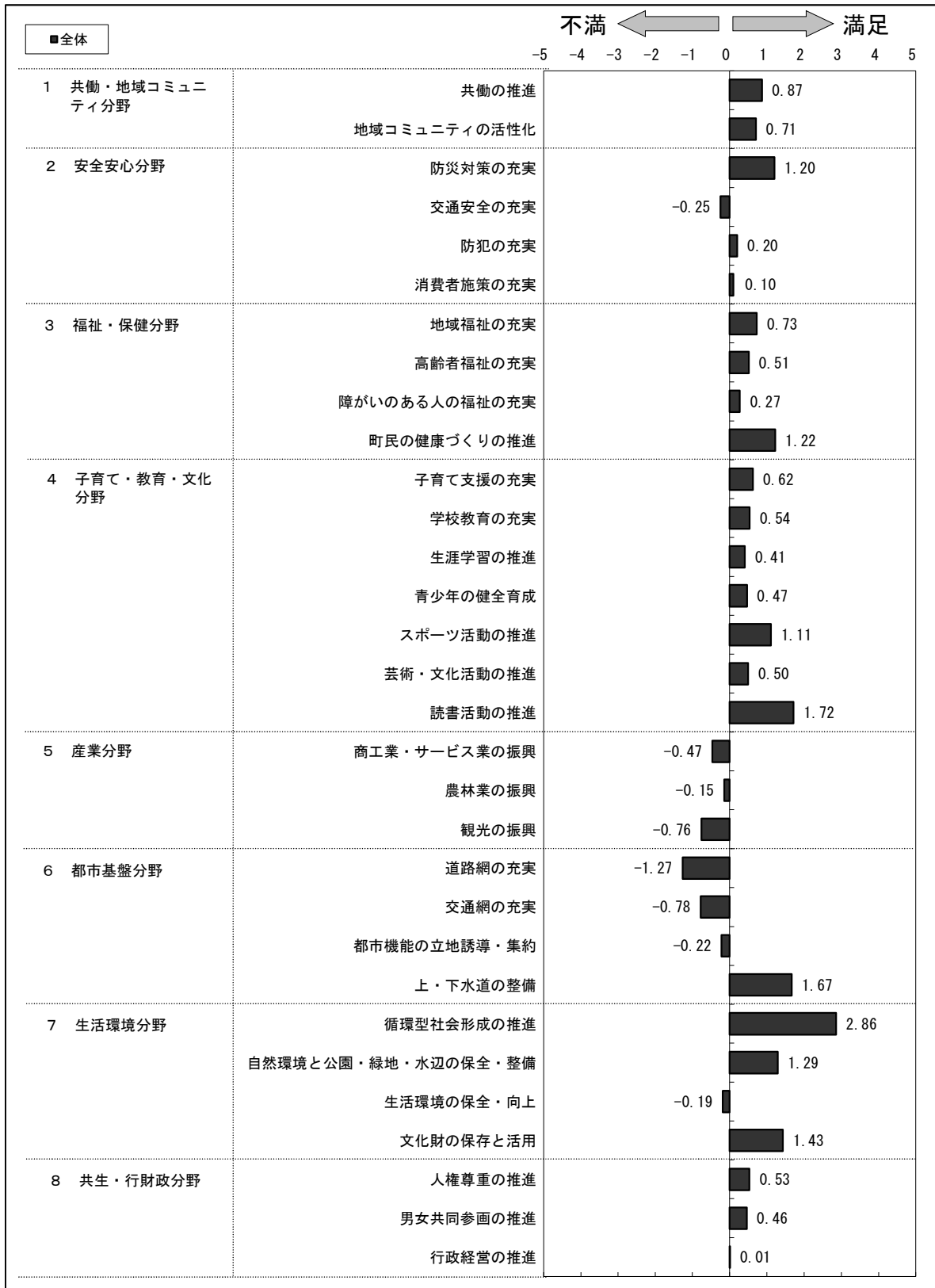
5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点（満足度）を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\left[\begin{array}{l} \text{「満足している」の回答者数} \times 10 \text{点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば満足している」の回答者数} \times 5 \text{点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば不満である」の回答者数} \times -5 \text{点} \\ + \\ \text{「不満である」の回答者数} \times -10 \text{点} \end{array} \right]}{\left[\begin{array}{l} \text{「満足している」、「どちらかとい} \\ \text{えば満足している」、「どちら} \\ \text{ともいえない」、「どちらかとい} \\ \text{えば不満である」、「不満であ} \\ \text{る」の回答者数} \end{array} \right]}$$

この算出方法により、評価点(満足度)は10点～-10点の間に分布し、中間点の0点を境に、10点に近くなるほど評価は高いと考えられ、逆に-10点に近くなるほど評価が低いと考えられる。

図表5 まちの各施策に関する満足度（全体）

（単位：評価点）



(2) まちの各施策に関する重要度

- 重要度が最も高い項目は「交通安全の充実」。次いで「交通網の充実」、「防犯の充実」、「循環型社会形成の推進」、「道路網の充実」の順。

満足度と同様に、まちの各施策（8分野 31項目）の重要度について、加重平均値による数量化[下記参照]で評価点を算出しました。

重要度が最も高い項目は「交通安全の充実」で、次いで第2位が「交通網の充実」、第3位が「防犯の充実」、続いて「循環型社会形成の推進」、「道路網の充実」、「防災対策の充実」、「町民の健康づくりの推進」、「上・下水道の整備」、「子育て支援の充実」、「自然環境と公園・緑地・水辺の保全・整備」などの順となっています。

これら上位10項目をみると、“事故や犯罪、災害のない安全・安心なまちづくり”と“道路・交通網の利便性の向上”をはじめ、“きれいで快適な生活環境の整備”、“健康づくり環境や子育て環境の充実”が重視されていることがうかがえます。[図表6参照]

前回の調査結果と比較すると、重要度が大幅に上がった項目は「消費者施策の充実」・「青少年の健全育成」、「自然環境と公園・緑地・水辺の保全・整備」、「循環型社会形成の推進」、「学校教育の充実」などとなっています。

職員の調査結果と比較すると、重要度の上位5項目は、「交通網の充実」と「道路網の充実」は共通してあげられていますが、職員では、これらに続いて「子育て支援の充実」、「防災対策の充実」、「学校教育の充実」となるなど、まちの各施策に関する重要度については、町民の評価と職員の評価には違いがあります。

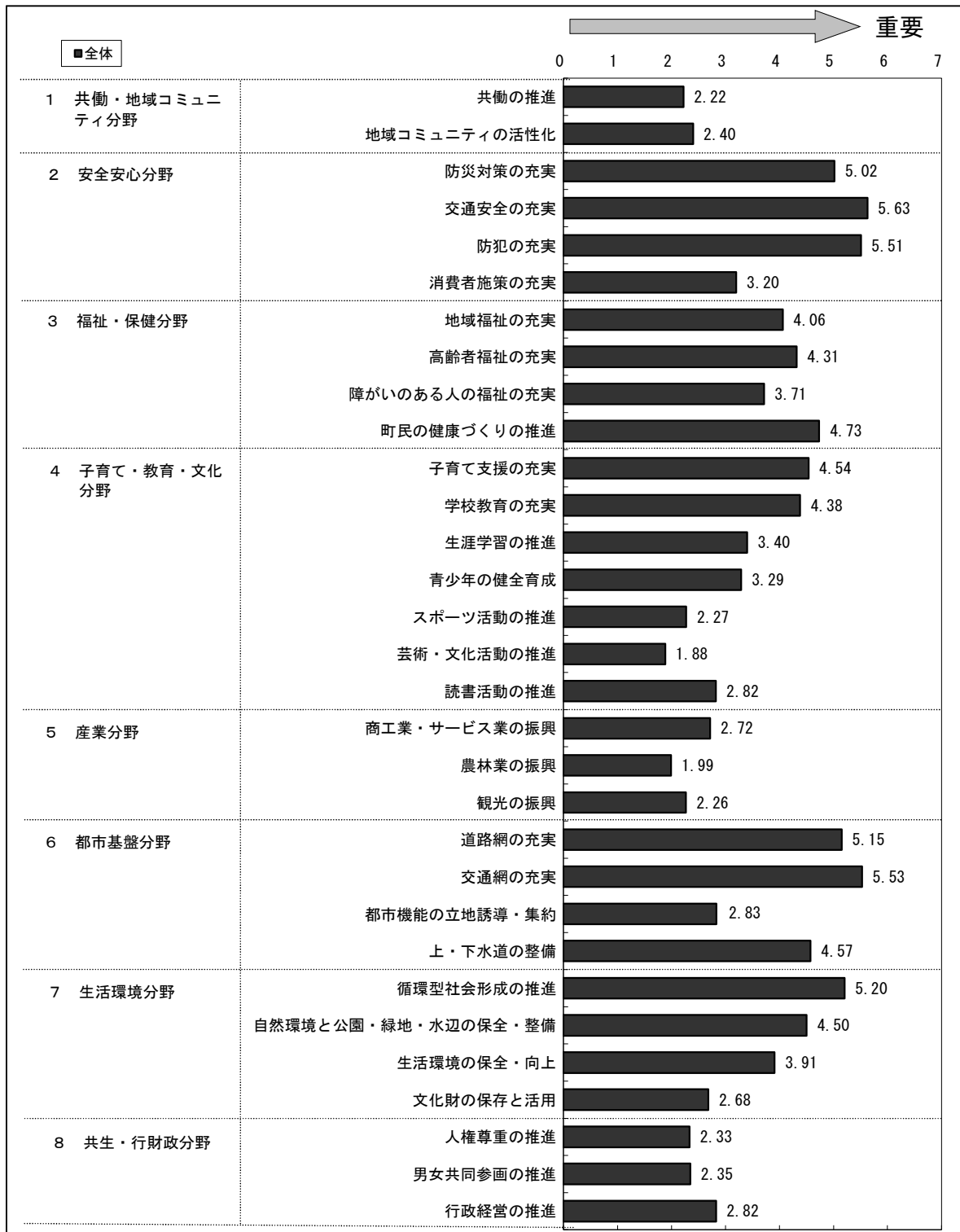
※加重平均値の算出方法

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点（重要度）を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \left[\begin{array}{l} \text{「重視している」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\ + \\ \text{「やや重視している」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{ 点} \\ + \\ \text{「あまり重視していない」の回答者数} \times -5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「重視していない」の回答者数} \times -10 \text{ 点} \end{array} \right]}{\left[\begin{array}{l} \text{「重視している」、「やや重視し} \\ \text{ている」、「どちらともいえない} \\ \text{」、「あまり重視していない」、} \\ \text{「重視していない」の回答者数} \end{array} \right]}\end{array}}$$

図表6 まちの各施策に関する重要度（全体）

（単位：評価点）



(3) 今後のまちづくりの特色

- 「安全・安心のまち」が第1位。次いで「健康・福祉のまち」、「子育て・教育のまち」、「快適住環境のまち」の順。

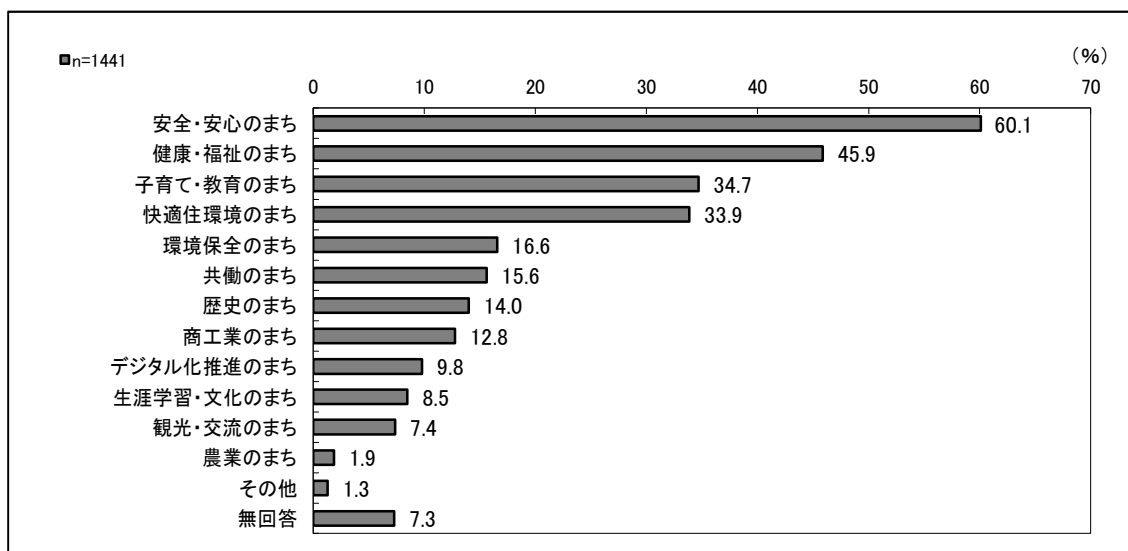
「安全・安心のまち」が第1位、次いで「健康・福祉のまち」が第2位、「子育て・教育のまち」が第3位、ほぼ同率で「快適住環境のまち」が第4位で、これらは他を引き離して代表的な回答となっており、「まちの各施策に関する重要度」の結果を裏づけるように、“事故や犯罪、災害のない安全・安心なまちづくり”が強く求められているほか、“保健・医療・福祉の充実”や“子育て環境・教育環境の充実”、“きれいで快適な生活環境の整備”が望まれていることがうかがえます。[図表7参照]

中学生の調査結果と比較すると、「安全・安心のまち」が第1位であることに変わりはありませんが、第2位をみると、「共働のまち」（町民では第6位）となっており、中学生では“町民と行政との共働のまちづくり”が望まれています。

職員の調査結果と比較すると、職員では「子育て・教育のまち」（町民では第3位）が他を引き離して第1位となっており、次いで第2位が「安全・安心のまち」となっています。

属性別で見ると、ほとんどの属性で町全体と同様に「安全・安心のまち」が第1位、「健康・福祉のまち」が第2位となっていますが、30代では「子育て・教育のまち」が第1位、10・20代と40代でも「子育て・教育のまち」が第2位で、これら子育て世代では、“子育て環境・教育環境の充実”が最も重視されていることがうかがえます。

図表7 今後のまちづくりの特色（全体／複数回答）



3 地域コミュニティ・共働について

(1) 地域活動への参加状況と参加意向

- 現在“参加している”が18.3%、“参加していない”が73.8%。
- 今後“参加したい”が34.6%、“参加するつもりはない”が57.5%。

現在の参加状況は、「現在参加しており今後も参加したい」と「参加しているが今後は参加するつもりはない」をあわせた“参加している”という人が18.3%、「現在参加していないが今後は参加したい」と「参加しておらず今後は参加するつもりはない」をあわせた“参加していない”という人が73.8%となっています。

今後の参加意向は、「現在参加しており今後も参加したい」と「現在参加していないが今後は参加したい」をあわせた“参加したい”という人が34.6%、「参加しているが今後は参加するつもりはない」と「参加しておらず今後は参加するつもりはない」をあわせた“参加するつもりはない”という人が57.5%となっています。

前回の調査結果と比較すると、現在の参加状況は、“参加している”という率が約4ポイント低下していますが、大きな差はありません。今後の参加意向は、“参加したい”という率が約6ポイント低下しており、参加意向がやや弱まっていることがうかがえます。

属性別で今後の参加意向をみると、“参加したい”という率は、性別では、男性が女性を上回り、年齢別では、60代と70歳以上で高くなっています。

居住地区別では、桜原小学校区で最も高くなっています。[図表8参照]

図表8 地域活動への参加状況と参加意向（全体・性別・年齢・居住地区）

	参加状況と参加意向 (%)					n
	現在参加しており今後も参加したい	現在参加していないが今後は参加したい	参加しているが今後は参加するつもりはない	参加しておらず今後は参加するつもりはない	無回答	
全体 (R3)	14.0	20.5	4.3	53.2	7.9	1441
全体 (H29)	15.7	25.0	6.0	47.2	6.0	496
性別						
男性	18.6	20.8	4.8	50.5	5.3	606
女性	10.7	19.8	3.7	56.1	9.6	782
年齢						
10・20代	5.1	24.8	0.0	65.0	5.1	117
30代	12.0	19.3	3.6	56.6	8.4	166
40代	15.7	17.0	5.7	57.4	4.3	230
50代	10.1	18.8	4.3	60.6	6.3	208
60代	14.8	24.4	3.3	50.4	7.1	365
70歳以上	18.7	18.4	6.3	44.3	12.3	332
居住地区						
宇美小学校区	12.6	17.1	4.4	57.6	8.2	340
宇美東小学校区	15.2	18.3	4.3	57.8	4.3	230
原田小学校区	10.7	23.8	3.5	54.8	7.2	345
桜原小学校区	20.8	19.1	4.4	45.6	10.1	298
井野小学校区	12.1	25.3	4.4	50.0	8.2	182

(2) 今後参加したい地域活動等

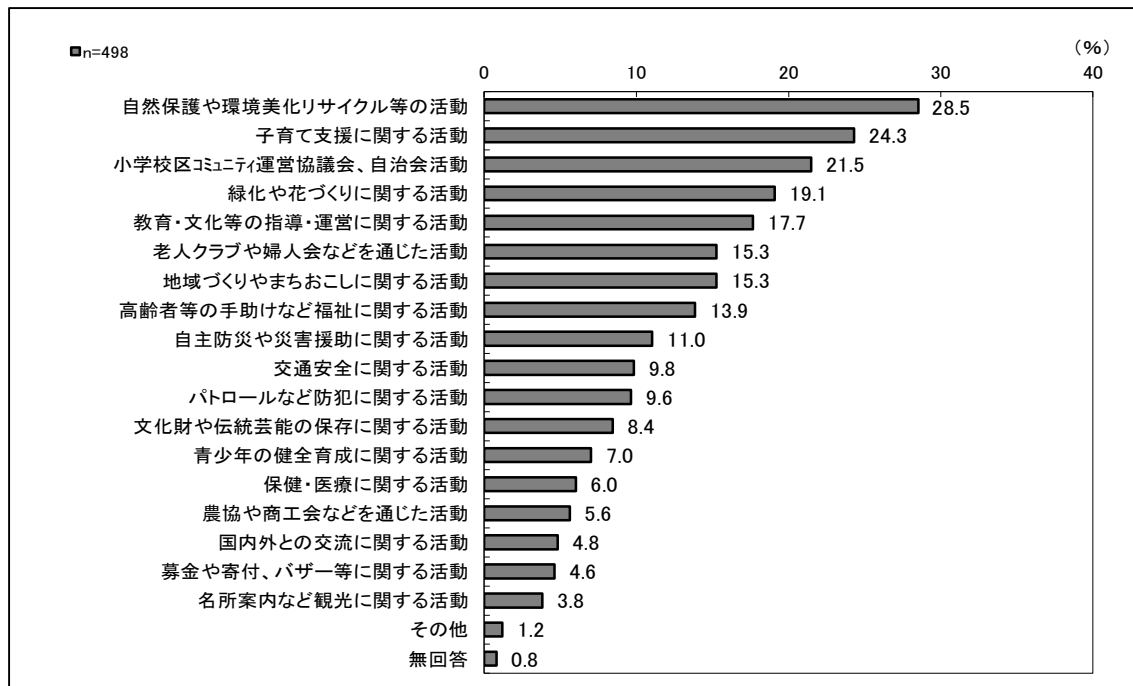
- 「自然保護や環境美化、リサイクル等の活動」、「子育て支援に関する活動」、「小学校区コミュニティ運営協議会、自治会活動」の順。

「自然保護や環境美化、リサイクル等の活動」が第1位、「子育て支援に関する活動」が第2位、「小学校区コミュニティ運営協議会、自治会活動」が第3位となっており、「環境保全」や“子育て支援”“地域自治”に関する活動に参加したいという人が多くなっています。[図表9参照]

前回の調査結果と比較すると、前回第1位の「老人クラブや婦人会などを通じた活動」は第6位に、前回第2位の「緑化や花づくりに関する活動」は第4位に順位を下げ、今回は、前回第5位の「自然保護や環境美化、リサイクル等の活動」が第1位、前回第7位の「子育て支援に関する活動」が第2位に順位を上げるなど、参加したい活動が大きく変化してきていることがうかがえます。

属性別でみると、多くの属性で町全体と同様に「自然保護や環境美化、リサイクル等の活動」が第1位となっていますが、女性や30代～50代、宇美小学校区、桜原小学校区では「子育て支援に関する活動」、50代では「教育・文化等の指導・運営に関する活動」、70歳以上では「老人クラブや婦人会などを通じた活動」、宇美小学校区では「小学校区コミュニティ運営協議会、自治会活動」が第1位で、性別や年齢、居住地区によって最も参加したい活動に違いがみられます。

図表9 今後参加したい地域活動等（全体／複数回答）



(3) 共働のまちづくりを進めるために必要なこと

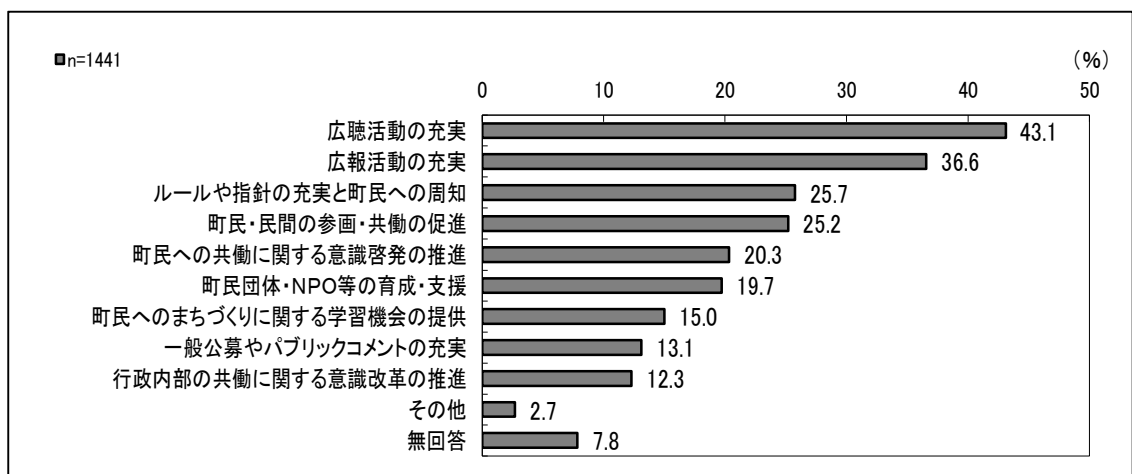
● 「広聴活動の充実」と「広報活動の充実」が他を引き離して第1・2位を占める。

「広聴活動の充実」と「広報活動の充実」が他を引き離して第1・2位を占める結果となっており、“町民の意見や要望を聞く機会の充実”と“行政情報の提供・公開”が特に重視されています。

これら以外では、「ルールや指針の充実と町民への周知」、「町民・民間の参画・共働の促進」、「町民への共働に関する意識啓発の推進」、「町民団体・NPO等の育成・支援」などの順となっています。[図表 10 参照]

属性別でみると、すべての属性で町全体と同様に「広聴活動の充実」と「広報活動の充実」が第1・2位を占め、ほとんど同様の結果となっており、性別や年齢、居住地区に関わらず、“町民の意見や要望を聞く機会の充実”と“行政情報の提供・公開”が特に重視されていることがうかがえます。

図表 10 共働のまちづくりを進めるために必要なこと（全体／複数回答）



4 幸福実感について

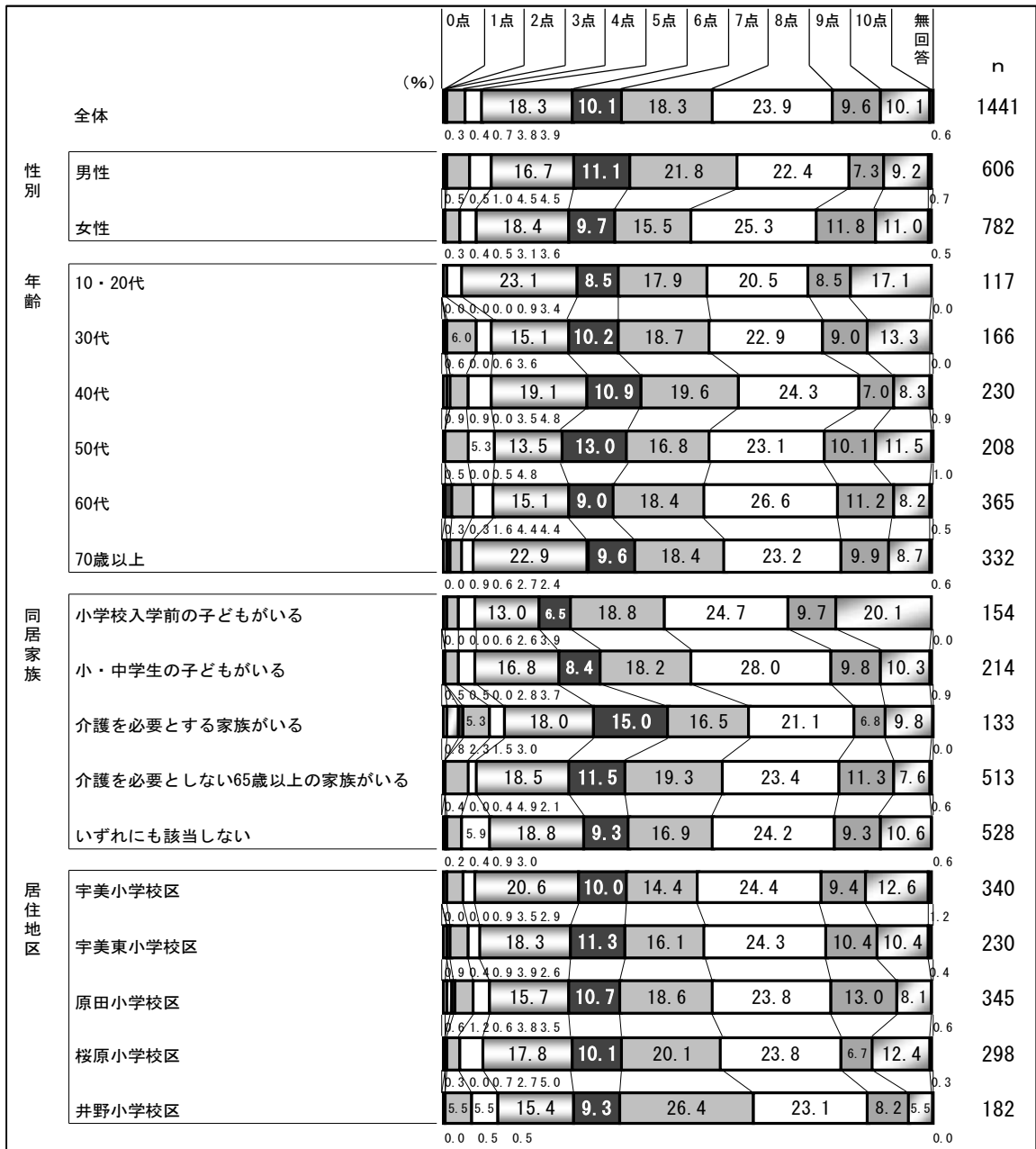
(1) 幸福実感について

● 「8点」、「7点」・「5点」の順で、平均点は6.91点。

「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として点数づけをしてもらったところ、「8点」と答えた人が23.9%で最も多く、次いで「7点」と「5点」が同率で18.3%、「6点」と「10点」が同率で10.1%、「9点」が9.6%などとなっており、全体の平均点を求めると、6.91点となっています。

福岡県が令和2年度に実施した県民意識調査の結果と比較すると、本町の幸福実感の平均点は、福岡県平均（6.69点）を0.22点上回っているほか、この調査の地域別結果で最も高かった福岡地域平均（6.80点）も0.11点上回っています。[図表11参照]

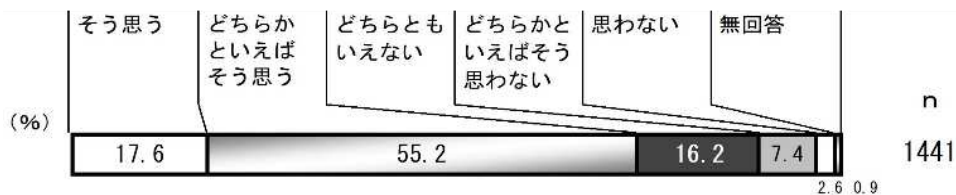
図表11 幸福実感について（全体・性別・年齢・同居家族・居住地区）



5 日頃の行動や考えなどについて

(1)

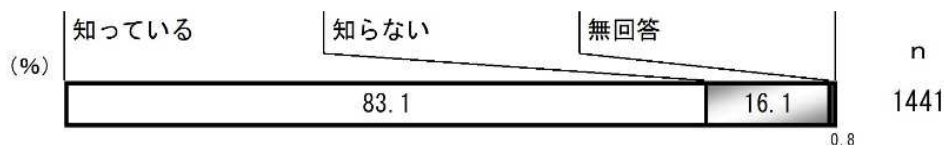
宇美町は安全に暮らせるまちだと思うか



“そう思う”が72.8%、“そう思わない”が10.0%。

(2)

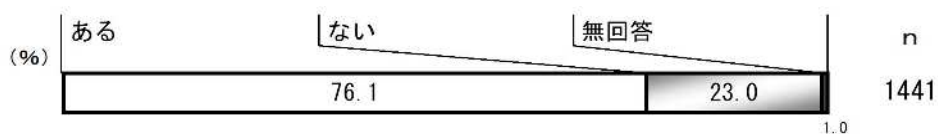
災害時の避難路・避難場所を知っているか



災害時の避難路・避難場所を知っている人は83.1%。

(3)

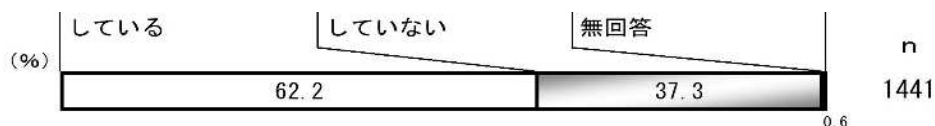
ハザードマップを見て自宅等の確認をしたことがあるか



ハザードマップを見て自宅等の確認をしたことがある人は76.1%。

(4)

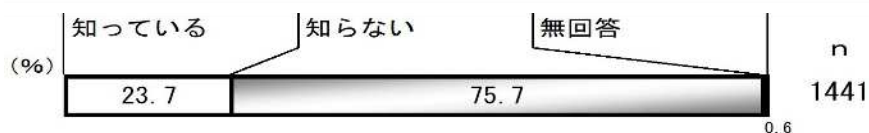
健康増進のための取組をしているか



健康増進のための取組をしている人は62.2%。

(5)

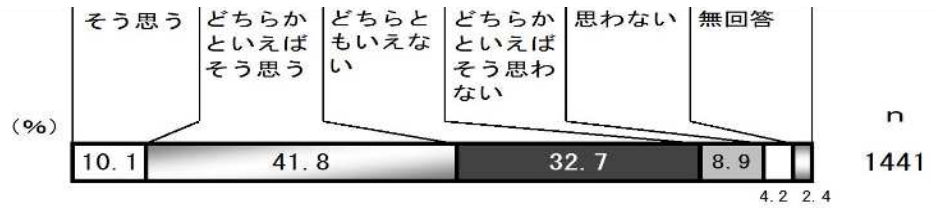
高血圧ゼロのまちに取り組んでいることを知っているか



高血圧ゼロのまちに取り組んでいることを知っている人は23.7%。

(6)

安心して子どもを産み育てることができると思うか



“そう思う”が51.9%、“そう思わない”が13.1%。

(7)

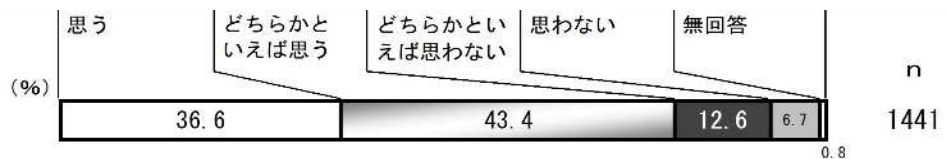
この1年間に生涯学習活動をしたか



この1年間に生涯学習活動を“した”人は40.1%、ほとんどしなかった人は58.5%。

(8)

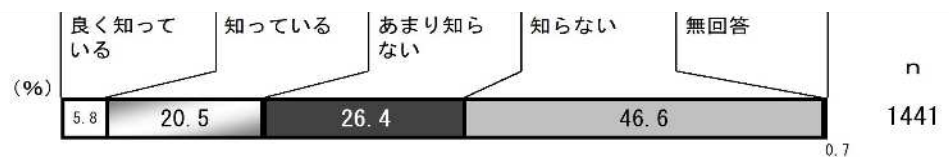
町内にある歴史文化遺産を誇りに思うか



“思う”が80.0%、“思わない”が19.3%。

(9)

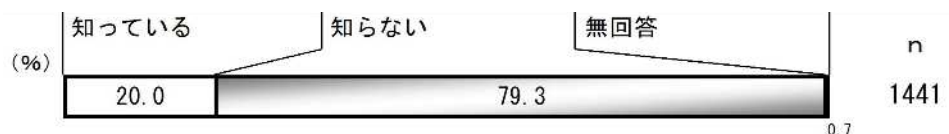
大野城跡が日本遺産に認定されていることを知っているか



“知っている”が26.3%、“知らない”が73.0%。

(10)

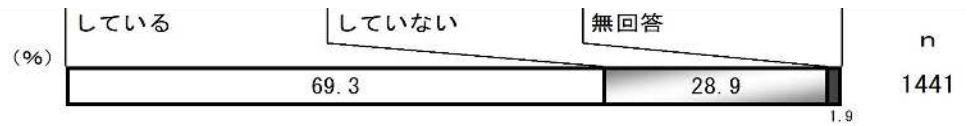
宇美町電子図書館を利用できることを知っているか



宇美町電子図書館を利用できることを知っている人は20.0%。

(1 1)

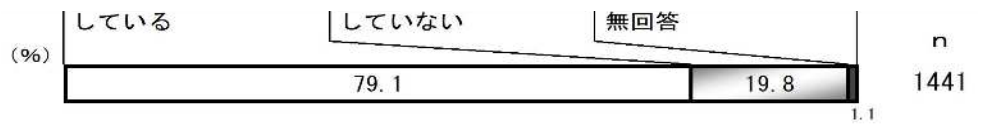
環境に配慮した生活をしているか



環境に配慮した生活をしている人は69.3%。

(1 2)

4 R運動をしているか



4 R運動をしている人は79.1%。

(1 3)

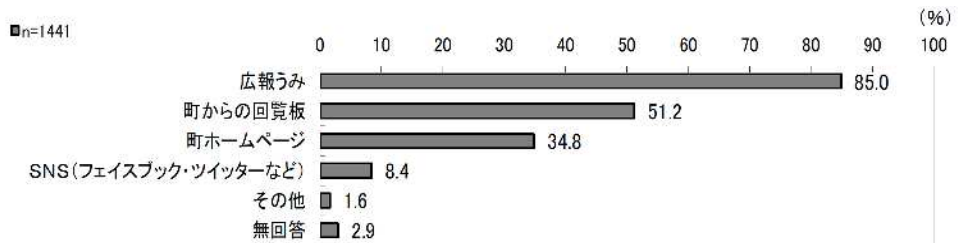
自然と共生する魅力あるまちづくりが行われているか



“そう思う”が43.1%、“そう思わない”が16.0%。

(1 4)

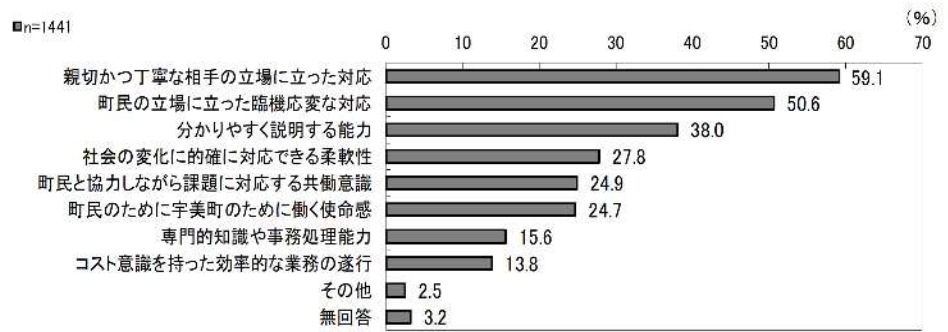
情報を得るために使っている手段



「広報うみ」が他を引き離して第1位、次いで「町からの回覧板」、「町ホームページ」の順。

(15)

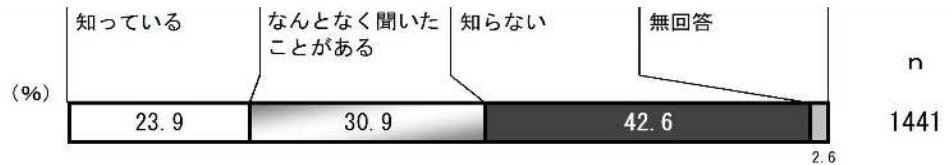
今後の宇美町職員
に特に求めるもの



「親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応」、
「町民の立場に立った臨機応変な対応」、
「分かりやすく説明する能力」の順。

(16)

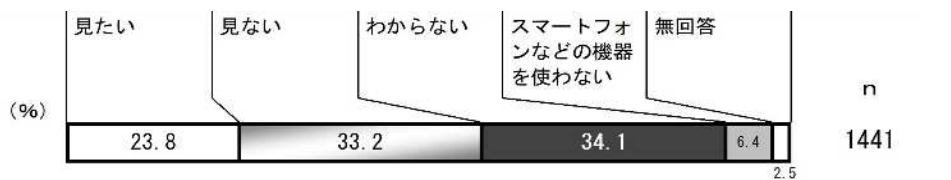
公共施設の更新問
題を知っているか



公共施設の更新問題を知っている人は23.9%。

(17)

議会審議の動画を見たいか



議会審議の動画を見たい人は23.8%。